

えんせん

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.242 2017年9月24日発行

巻頭説教 「感謝せよ！」—「信仰は感謝から始まる」—

牧師 高岡 清

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。(テサロニケの信徒への手紙—5章16~18)

「ありがとう」という言葉はわたしたちが「生きる力」に溢れていることのしるしのよなものである。

素晴らしいなにかを発見することなしに「ありがとう」を言うことはできない。「ありがとう」あるいは感謝とは人間関係の礼儀上の言葉ではなく、とても素晴らしいものを発見できた、与えられたという真理発見の言葉なのだ。この発見の喜びと感謝のないままわたしたちが「ありがとう」と言ったり聞いたりするとき、口が曲がったような耳がいらつくような不自然な気はしないだろうか。素晴らしいものを与えられたのに「ありがとう」を言えないのはひとつの「病い」のようなものである。たとえば精神的な病気といわれる離人症の人の場合そうした感謝の感情がなかなか湧かないという。かれらは話しかけられても自分の事だと感じられない。なにかをもらっても「与えられた」と思えない。愛されても「愛された」と感じられないからそれに応えられない。ただ自分のことでなんでこんなに人が騒ぐのか、自分のためするのかといふかるだけである。「人がしてくれることは分かるが、それによって自分はこんなに嬉しいという感じがしない」のだ。目の前に奇跡が起ころうがましてや人が自分のために犠牲を払っていようが「自分のため」とは感じられない。

「感謝」が感じられない人はまた「欠乏」も感じることはできない。ものの「ありがたみ」を喜ばないのはものの欠如を痛感できないのと変わらない。「有り難う」は文字どおり「そんなことはありえない！」という感情の表出である。信じられないようなことが現実になったと言う変化や発見の驚きである。病気が想像以上に早く治ったり、突然希望がかなったり、苦悩や痛みが取り除けられて信じられない救いが起きたとき、自分の存在は

根底から揺るがされて「感謝」となる。あるはずがないと思っていた幸いが自分の想像をこえてそこに与えられたとき「ありがとう」と言えるのだ。「キリスト者の信仰生活は聖霊による生活」とされる。それは「感謝・告白・服従・賛美」という日々となって動き出し、生活に「神の聖霊に導かれる」前進する力を与える。

だがパウロはテサロニケ教会の人々に「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」と「命令」していることに目を向けよう。文語聖書でははっきりと「常に喜べ、絶えず祈れ、凡てのこと感謝せよ」とじつに明確に教えている。少し疑問を持つ人がいるかもしれない。「感謝って心から自分でするものでしょ、どうして強制されて感謝できるの？」と。いや、まさにここに聖書の核心がある。「それよりも、感謝を表しなさい」とはエフェソの信徒への手紙5章の言葉だ。信仰者個々の主張や考え方、思いやこだわりがどれほど崇高で立派なものであっても、大事なことは「それが神に向かうこと」である。「感謝が人間の心に生ずることより」も大切なことだ。いくら深く気高い感謝が人から発せられようとも、人間の「気高さ」や「深さ」が求められてはいない。神が求めておられるのは、ただ「神に感謝する」という一点だ。神の求めておられるのは感謝の大きさではない。感謝のスタンドプレーではない。

神の「感謝せよ」との言葉に従うときわたしたちは「感謝できる」。神の言葉の命令はキリスト者の従順を可能にする。聖書に聞こう、そうすれば神を信仰できる。そうすれば愛せる。





雨続きの日です。
かつて、この部屋で夫の遺影に向かって「そちらは晴れていますか。」と語りかけて下さった瑤子姉の声を思い出しています。

一昨年(2019年)の11月17日には、明るくお元気な声で電話も頂きましたのに、

思いが残ります。

瑤子姉との交わりは、1974年に田園調布教会からの転入以来、親しく言葉を交わすようになり、また20数年間を短歌結社の仲間として、共に歩んでまいりました。

迷いのない決断力と正義感に加え、さっぱりした明るさと思いやり、そして、気どりのないユーモアもお持ちで、互いに失敗談など打ち明けて笑い合ったものでした。

また、心臓病で入院された時は、厳しい治療法を淡淡と語られたことに驚きました。

お元気な年には、短歌結社の全国集会に参加、江の島 仙台 長浜 東京 奈良 姫路 蒲郡などに同行。私が不参の高知や長崎の様子なども詳しく聞かせて頂きました。

東京では、二人で長津牧師をお訪ねしたことも忘れ難い思い出です。

瑤子姉の作品に穏やかな鴨のつがいを詠った一首があります。私は、神の創られた生あるものの在りようをそこに見るような気がします。

聖日には、常に連れだつたご夫婦の姿がありました。かつて、夫が入院した時もお二人で見舞って頂いたことは忘れません。

『主の恩寵に生かされ、長い人生を歩むことができました。摠輔兄感謝のみです。』

瑤子姉の遺されたこの言葉は、どんなに優れた詩歌よりも気高く心打つものです。

瑤子さん、今私は、一人で礼拝の席に居られるご夫君の背にあなたの偲を見えています。

現し身のあなたに、もう会えませんが、神様は私達に永遠を思う心を与えて下さいました。滅びなき世でまたお会いできましょう。

長い間、有難うございました。どうか、ゆっくりお休みください。晴渡った天つみ国で。



姉との記憶は聖句の意味を求めて通う内に受洗を勧められ、教補の指名を受け関わって下さった長老39才、私24才頃に遡る。取っ付き難い聖書通読を共にして下さったり、『天路歷程』『聖書の読み方』『祈りの本』を始め数々頂いた。准看にて学べたのも医師会へ御足労下さったから。CSでは子達もお世話になった。姉の紹介でパンを習い家族に喜ばれた。又、自信無く再就職すれば看護の本を。罹患した折は治療情報を。又、家族を離れ高看の勉強可能な地へと考えて諫められた事もあった。

姉の手紙に「主にある希望と勇気が与えられる様に」「キリストの力がわたしの弱さの内に宿る様に御言葉を受け止める仲間として。」患った時は「傍らにいる一人として御心がどこにあるのか悟らせて下さい。」とあり。「ヤコブの手紙を信仰の訓練の書として前進してゆきましょう。」と。又、連名カードには「共に礼拝し語り聴き交わりが許されて嬉しいです。」と。道々交わり努めて下さった跡を見る。

かつて娘に、自分の事ばかりの者「よく萩野さんが付き合ってくれるわ!」と言われた。

昼食や整備の奉仕等ゴ一緒したが抗う事もあった。80才過ぎて倒れた事もあり、忙しくされるので心配だった。教会近くにシェアハウスはと思う事もあった。姉の意考は如何に。

よく引越され、深入りしない傾向と伺ったが、金城同級生と炊き出し奉仕の帰路親しく語り合ったり、長老仲間を訪ね歓談する時があると聞き、僭越ながら望ましく思っていた。ところが報せ無く礼拝に見えないのでお見舞いすると、ベッドに冷たくなっておられる姿に触れた。驚き牧師に助けを、祈って下さり、Drが診られ、気付くと周囲の壁に沢山のXmasカード、礼状、誕生カード、私の絵手紙も止めて在った。はっとし、姉の寂しさと想ったが、愛された永泉教会にて葬儀礼拝は多数繋がる方々が遠くからも参列され見送られた。キリストの日、相見える時にも弟妹の世

話を取り持っておられるでしょうか。感謝。

映画会の報告

映画会「沈黙」SILENCEを教会で上映

岩田 武

7月17日（海の日・月）午後1時から、場所は瀬戸永泉教会礼拝堂で開催いたしました。参加者は43名（教会員21名、外来者22名）でした。

映画会は昨年「青銅の基督」を上映し、大変好評でしたので今年も映画会を行なおうと伝道委員会で決定しました。今回は話題の「沈黙」でなく1971年版の「沈黙」を上映しました。原作は遠藤周作で監督は篠田正浩です。俳優は、デビット ランプソン 丹波哲郎 岩下志麻 岡田英次 三田佳子で上映時間が2時間10分です。内容はあまりにも酷い拷問の苦しさに堪えかね、死んでしまう信者たちあるいは、踏み絵を行なってしまう信者たち、このような暗いシーンが2年連続でした。伝道委員会の反省で外来者の方が試練があり過ぎて、キリスト教のバーが高すぎると感じられる方が見えるのではないだろうか？ 原作との関わりが若干違っていたのではないかな。

来年の映画会は、もう少し明るい感じのDVDを検討します。乞うご期待を！！

建築準備委員会からの報告

三ツ川修治

先日の教会員へのアンケート結果において「現在の礼拝堂を残したい」との意見が多くありました。

100余年受け継がれてきた礼拝堂で礼拝を守ることが出来たことに感謝する気持ちの大きさを改めて感じました。

現在、建築準備委員会の中でいろいろな面から検討を重ねておりますが、私達の思いのほかに、下記の観点からも礼拝堂を残すことは大切と考えています。

- ・登録文化財としての礼拝堂の価値
 - ・地域での認知度が高い
 - ・教会堂見学者へ伝道のアプローチ機会有
 - ・永眠者記念礼拝参加者多く地域信仰拠点
- 前年までの建築準備委員会では他教会の新築方法を学びながら新しい礼拝堂建築について検討して参りました。そのひとつとして

【新礼拝堂を建て現礼拝堂の記念館的利用】を検討しましたが、主な課題として

- ・旧礼拝堂の保存と活用方法、敷地の制約
- ・新設費用と維持管理（移設管理費用が高価）があります。このため専門家からの礼拝堂の簡易な劣化診断見解等により劣化が進行しておらず耐震化費用が安く済めば現在礼拝堂を有効活用する案として【現礼拝堂耐震化やバリアフリー化し改修】についても専門家による設計プランに基づき今後、検討していきたいと思えます。

検討例として、玄関を南側に増築し新たなスロープによる入口および部屋を設ける案等により狭い玄関やバリアフリー化への対応をするものです。

教会員の高齢化への対応や、地震への備えも急がなければなりません。この状況の中で慎重に検討を重ね教会員のご意見を頂きながら進めて行きたいと思えますのでよろしくお願いいたします。



CS夏の集いの報告

テーマ「使徒信条～イエスさまは一緒にいてくれます～」 森下亜希子

2017年8月11日（金）～12日（土）に教会学校の夏の集いを行いました。参加者は幼小6名、高校生1名、大人15名でした。

1日目は教会中にばらばらにして隠された使徒信条を探してつなげるCredo（クレド）ゲームに始まり、古路迦さんに中国の讚美歌を、江尻忠之さんにゲームを教えてもらったり、スイカ割りをしたりととても楽しい時を過ごしました。

午後からはあすけ里山ユースホテルに向かいました。あいにくのお天気で、予定していた花火や天体観測はできませんでしたが、「ヲタ芸（ペンライトを使ったダンス）」の発表や即席の肝試しを楽しみました。

2日目は、野澤つくも君の証を聞いたり、古さんに教わった中国の讚美歌を手話にして歌ったりした後、雑巾がけ競争をしてきれいにお掃除をして、元気にお礼を言って帰ってきました。教会では、ボランティアの方々がとっても美味しいドライカレーのホットドックを作って迎えてくださいました。

CS教師だけでなく、古さんや江尻さんに加わっていただいたことで、新鮮な体験ができ、また食事作りも支えていただいて、教会全体で子どもたちを育てていることを感じました。感謝です。



今後の予定

・教会創立記念日礼拝

2017年10月15日（日）

礼拝説教「神の教会」

杉本 誠教師（西尾教会）

コリントの信徒への手紙一 1章1～9

※礼拝後、懇談会「現代宗教やカルト」に関して

・永眠者記念礼拝

2017年11月5日（日）10：30～

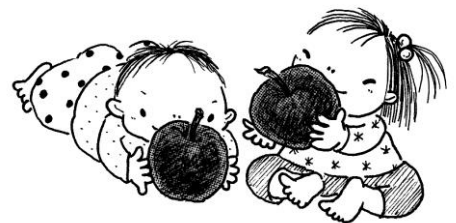
※十字が丘復活苑にて墓前礼拝 15：15～

・子ども祝福式

2017年11月19日（日）10：30～

・クリスマス礼拝

2017年12月24日（日）10：30～



＝編集後記＝

二人の姉妹を天に送り地上は寂しくなりましたが、天の国を近く感じることができるようになりました。ご遺族の上に主の慰めを祈ります。

小椋実央

日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 高岡 清

〒489-0822 瀬戸市杉塚町5 電話、FAX：0561-82-2314

ホームページ：瀬戸永泉教会で検索

www11.plala.or.jp/eisen/